【平成31年度沖縄県移住定住促進事業】

中間支援組織育成に係る
ヒアリング結果と今後の研修企画案

ヒアリング概要

１．スケジュール/対象

実施時期：5月11日（月）～6月上旬
対象：
・「ヒアリング希望有り」自治体
・過去移住事業実施、かつ中間支援組織立ち上げ等に意欲等のある自治体
・独自の移住促進施策を実施している自治体

２．目的

●中間支援組織機能拡大に向け、各市町村等関係者の意見を把握、整理した上で、研修内容を企画する。

●特に、「中間支援組織」立ち上げ・支援に関する地域ニーズをくみ取ることで、プログラム策定の一助とする。

３．各市町村からの声＿ケースごと

※既存の団体がすでにあるケース

●団体との意見交換、業務の切り分けに関して課題あり。先方がどこまで受けられるかがわからない。
一方、団体側も、自治体がどこまで求めたいのか、どこまでなら委託できるのかが不明。
●地域内でのニーズを拾い切れていない可能性。
●公的補助金、助成金等があてにできない場合、活動をどのように継続できるかが不透明。

※既存の団体がないケース

●協議会方式での立ち上げを想定した場合、どのようなメンバーにするかが課題。
●個人立ち上げを想定した場合、事業委託や自治体との連携が課題。

※自治会等に依頼するケース

●区長さん他にエッセンスを伝えていきたい。

４．各市町村からの声＿要望

●他市町村の事例をよく知りたい。特に県内でのケースをシェアしあって互いに勉強できるような場があったほうが良い。
●移住促進自体の優先順位が上がっていない。危機意識をどのように持たせるのか。

ヒアリング結果整理＿地域が感じている課題

・ヒアリングの結果、市町村の状況により課題は異なるが、大きな分類として下記3点が浮かび上がった。

１、空き家の活用：市町村や集落ごとに状況がかなり異なる

●空き家がない　→　そもそも地域に空き家が存在しない。住宅の供給不足。

●空き家はあるけど使えない　→　空き家はあるが痛みが激しい。お仏壇などの在り処として使われている。

●空き家の開拓ができない　→　空き家の開拓方法がわからない（例）家主との連絡ルートが不明等

２、移住促進：人材獲得戦略＝地域内の理解と合意形成の不足

●地域が求める人材像がわからない　→　地域の未来像が合意形成されていない。地域の課題が不明確な状態である。

●人材を呼び込む方法がわからない　→　地域に必要な人材像への広報のやり方が不明。

３、事業の継続性：人材不足と資金調達の必要性

●空き家活用や移住促進を続ける仕組みが作れない
→　担い手（組織、個人）がいない。事業を続けられるだけの収入のあてが行政予算のみ。

プログラム内容案

①目的

・計3～4回の講義を通じて、各地ヒアリングにおいて特に挙がっていた
「空き家活用・対策」「（移住取組に対する）地域内理解浸透」「事業の継続実施」 について、
および移住促進活動で必要な**「外部への発信」**に関する内容を、講義形式で行っていく。

②内容案

＜第1回＞
日程：8月26日の週予定
テーマ：地域内理解と、県内で始められる「小さな一歩」に関する講義

講師：わんさか大浦パーク深田氏、ETIC伊藤氏、プロモーションうるま（中村／仲宗根）

内容案：
（１）中間支援組織の県内事例紹介＿１
プロモーションうるまの事例を知る（立ち上げ経緯、事業内容、各事業間の連関、今後の想定など）
（２）中間支援組織の県内事例紹介＿２
わんさか大浦パークの事例を知る（および深田さんがやってきたこと・久志で起きていること）
（３）全国の事例を知る
・ETICから、いま全国で起きている最先端の事例を伝えてもらう
・（特にわんさかの事例について）体系づけて、どこがポイントなのかを外の視点から解説してもらう
・地域仕掛け人市のレポート（平田）

実施場所案：名護市久志想定（わんさか大浦パーク会議室）
※うるま市はすでに視察した方も多いので、希望者のみ2日目に視察を入れる

プログラム内容案

②内容案

＜第2回＞

日程：10月ごろ想定
テーマ：空き家を掘り起こすには

講師案：
・夢古道おわせ　支配人　伊東将志さん
・NPO法人おわせ暮らしサポートセンター　木島恵子さん

内容案：
（１）空き家掘り起しの事例＿三重県尾鷲市の事例
　（１）－１：地域内での下地作り（伊東さんより）
　（１）－２：空き家開拓について（木島さんより）
　　※木島さんはオンライン参加も検討。
（２）自地域課題の共有と、解決策検討

南海日日　2018年（平成30年）8月25日 土曜日

定住移住取り組み評価

おわせ暮らしサポート　知事とスタッフ対談

鈴木英敬知事は22日の加藤千連市長との対談後、会場を尾鷲市朝日町のNPO法人おわせ暮らしサポートセンターに移し、「みえの現場・やっぱしすごいやんかトーク」で木島恵子理事長（51）らスタッフ6人と空き家バンクの取り組みなどについて意見を交わした。

鈴木知事は「人生の大きな決断となる分野で成果を挙げるのはすごいこと。尾鷲の良さを伝えながら定住施策につなげてほしい」とエールを送った。

同センターは今年4月、定住移住者の支援強化と地域おこし協力隊退任後の活動継続を目的に法人化。協力隊を退任した木島さんを理事長に、尾鷲市の定住移住を担当する協力隊員5人が常駐している。

業務は空き家再生、定住支援、移住体験住宅の運営、田舎暮らし促進の4本柱。三木浦町の空き家を活用した移住体験住宅「三木浦ソワイ」を8月にオープン。今後は港町の空き家や朝日町の旧家「土井見世部」を活用した古民家カフェやシェアオフィス、ワーキングスペースなどの賃貸業務にも取り組む。

トークには木島理事長と鈴木教平さん（29）、中尾拓哉さん（32）、早川あやさん（26）、谷津健太さん（33）、鷲橋正成さん（33）―の6人に、加藤市長も参加。鈴木知事の司会進行で対談した。

鈴木知事は「三重県の転出超過は毎年約4千人前後で15～29歳が83％を占め、若者定着の転入施策が重要になる。皆さんの意見や取り組みを参考に県の定住移住施策に反映させたい」と述べた。

トークの後、知事は「全国でも自治体のモデルとなる素晴らしい取り組みで大変勉強になった」と語り、木島理事長は「知事と対話する中で活動の方向性が間違っていないことを確認できてよかった」と話した。

市職員の支援心強い
法人化で事業拡大

鈴木英敬知事と意見を交わすおわせ暮らしサポートセンターの木島恵子理事長（左から2人目）ら

知事　協力隊として尾鷲を選んだ理由や魅力は。

鈴木　母が尾鷲出身で子どもの頃からゆかりがあった。尾鷲は衰退著しいが人間的に魅力のある人やまちおこしを真剣に考えて行動に移す人が多い。一緒に活動するのが楽しく可能性がどんどん生まれている。都会にはない田舎の良さを実感できたことで視野が大きく広がった。

中尾　社会問題に関わる仕事がしたいと考えていた時、協力隊の現地見学会で空き家に携わる情報を知り、職員の人柄にも共感できた。尾鷲市には挑戦したいことを形にできる環境が整備されている。サポートセンターの法人化で空き家に手を加える事業が可能となり、経営的な目線での任務は想像以上の経験。われわれの考えが移住者増に直結するのでやりがいがある。

知事　職員の対応は重要で加藤市政の改革

実施想定場所：那覇以外の県内で調整中（離島可能性あり）

※尾鷲市では空き家バンク当初0件のところから、地域おこし協力隊を入れて開拓を進めたことにより登録件数200件にまで増加、うち90件がマッチングした。その裏でプロジェクト設計等で動いていたキーマンが伊東さんであり、実際に開拓を行ったのが木島さん。
※伊東さんの話は、地域への理解促進～空き家掘り起し～組織としての継続のための法人設立、と本プログラムでのプロセスと全く同じことを経験しているため、ご自身のプロセスをお話しいただくことは全体プログラムを通しても有用。

プログラム内容案

②内容案

＜第3回＞
日程：12月ごろ想定
テーマ：事業を継続していくためには

講師想定：検討中

内容案：
（１）全国の事業継続事例の紹介
（２）事業継続に向けてのポイント
（３）実際に事業計画を練ってみる

実施想定場所：県内離島も含め検討中

※この回で、自地域における事業計画策定まで出来るとベスト。
そのための材料として、全国での事業展開事例を複数紹介することを検討。
→可能であれば、前2回の話等を踏まえ各地域がベンチマークしたい団体をより詳しく紹介する場とする。オンラインで参加可能な団体（県外）があれば依頼する。

プログラム外の実施内容

各市町村の状況に合わせたコーディネート

＜既存組織あり＞

・自治体と既存団体の協議の場の設定。事業や事業外プログラムの活用方法について共同で検討
・今年度事業内で実施可能なことの洗い出しと、今後のスケジュール設定
・事業内での実施事項についてのフォローアップ

＜既存組織無し＞

・機能の定着（組織組成等）に向けた課題の個別洗い出し、および地域内キーマンへのアプローチ同行
・次年度以降の方向性等についての協議、および地域内での広報サポート

次年度以降のステップ（予定）

今年度　受講者向け

①先進地、先進事例視察研修
- 本年度の講師の地元や、講義で紹介した事例などを実際に見学し、講義との相違点等を学ぶ。
- 自地域に持ち帰るべき事例を吸収し、自地域で展開していく

②相談会企画、運営の自主
- 自地域で求める人物像を見定め、告知内容やイベント内容を自身で検討し、実行していく
  （今後自地域単独での相談会実施が出来るようになるステップとして想定）

③空き家交渉の実践と振り返り
- 講義内容を実践に落とし込む中で現れる課題等の共有、および対応策を検討し、実践と講義を繰り返すことで空き家交渉の成功率・数を挙げていく

今年度　未受講者向け

・本年度の内容を踏襲しつつ、本年度中に出た課題を反映し、プログラムをブラッシュアップしながら実施予定